

## 2018年フィリピン研修 報告書

京都大学人間環境学研究科 修士1回生 本間桃里

私の研究テーマは日本に住む多様な文化的背景を持つ子どもの教育保障と福祉についてである。安里先生の移民研究の授業を受講したり、京都市の小学校でフィリピンにつながる子どもたち(Japanese Filipino Children)を対象にした学習支援に携わるにつれ、日比間の人々の移動の構造とその構造の中にいる個々人の背景や人生、フィリピンに住む人々の価値観と文化に強い関心を持った。この研修に参加したのは、フィリピンにつながる子どもたちを取り巻く構造を様々な視点から捉えると同時に、フィリピンをより近くに感じたいと思ったためである。

1週間はとても濃く、私の期待を上回るものだった。印象的だったことを選別するのは難しいが、特に心に残ったできごとをいくつか挙げる。まず、興行ビザの認識についてである。私が読んできた本や文献、以前お話を伺った女性のエンパワメントを目指すNPO団体の見解では、興行ビザは女性(とりわけ貧困層)を商品化する人身売買であることや、日本での労働環境が期待と違い劣悪で売春を強いられることもあったなど負の側面が強調されていた。しかしながら、今回お会いしたエンターテイナーのプロモーターをしていた方や、エンターテイナーの送り出し企業で働いていた方の見解はこれと異なった。エンターテイナーは決して売春婦ではない(強制売春があったとすれば年に9万人もの女性は来日しなかったであろう)し、フィリピンで仕事をするより日本の方が守られた環境だった。エンターテイナー達からの苦情もなかったようだ。また、日本で2000年頃にエンターテイナーをしていた女性たちと食事をする機会も設けていただき、そこでは全員口を揃えてエンターテイナーをしていたことをいい思い出だったと語っていた。あまりにも見解が異なるので未だに受け止めきれていないのが本音だ。

これから結婚移民する女性たちのお話も心に残っている。私と同じ年代の女性たちが全員40代かそれ以上の年上の日本人男性と結婚することにモヤモヤした。モヤモヤしたのは、偽装結婚が50%以上であるという衝撃のお話を移民の所管である(Commission on Filipinos Oversea)の方から聞いた直後で結婚のうさんくささを感じてしまったのと、しかしそもそも正しい結婚はあるのか、結婚はなんなのか分からなくなってしまったのと、フィリピン人女性がDVの被害者になりやすいというデータを目にしてきたために彼女たちの将来が心配になってしまったのと、幸せそうに語る彼女たちを祝福したい想いと、色々な気持ちが入り交じったためである。私が知らぬ間に持っていた結婚観を見直さざるをえない体験だった。

さらに、フィリピンにある日本語学校もこれから考えたい課題の一つである。訪問させていただいた日本語学校の関係者によると、来日前に留学生のアルバイト先が決まっていることは違法であるが、留学生にとっても事前に日本語学校や福祉施設などのアルバイト先が決まっていることは安心であり、受け入れ先にとっても人材不足を解消できて助かるのでwin-winであると言う。一方で、留学生が来日後に多額の借金を抱えアルバイト漬けになり本来の目的である勉強を十分できない事例があることを考えると、日本語学校の方針に素直に賛同できなかった。

他にも学校や福祉施設などさまざまな場所へ足を運び、たくさんの出会いがあり、私が生きてきた世界と違う世界を知った。異なる視点を知るにつれ、互いの矛盾点も発見し自分は何を信じれば良いのか分からなくなった。しかしそれは今まで見えなかったことが見えてきた証なので、研修の大きな収穫だと思う。また、フィリピンに住む人々のポジティブさや明るさから元気をもらうこともできた。

食べ物も日本では珍しいものも多く、どれも美味しかった。フィリピンを以前より知ることができ、以前より好きになった。安里先生が「続けていくことが大事」とおっしゃっていたように、なんらかのかたちで今後もフィリピンにつながる子どもたちと関わっていきたい。そして、今回の研修で学んだことや考えたことを活かして、多様な人々が共に幸せに暮らせるような社会環境づくりに少しでも貢献できるよう研究や実践に励もうと思う。

#### 謝辞

研修に際しては国際交流推進室の職員のみなさまをはじめ多くの方々にお世話になりました。心より感謝申し上げます。